

校舎配置案ごとの特徴比較表

資料2

配置図案			A校舎病院側案	B校庭病院側案	Cその他1	Dその他2（1の左右逆）
■ 普通教室 ■ 体育館 ▲ 人出入口 ▲ 車両出入口（緊急時） ▲ 車両出入口（給食搬入用） --- 冬至13時の影 --- 学校用地 ⊙ ±0 道路面の高さ ※ 敷地左下端の最も地盤面の高い場所を基準とします。						
No	項目	条件				
1	広さ(延べ床面積)	プールは屋外	・約7700㎡(プール除く)	・約7800㎡(プール除く)	・約7800㎡(プール除く)	・約7800㎡(プール除く)
2	階数	建築面積2700㎡以下	・4階（屋上にプール及び更衣室と機械室）	・5階	・4階（屋上にプール及び更衣室と機械室）	・4階（屋上にプール及び更衣室と機械室）
3	普通教室配置	十分な日照のある位置に配置	・校庭向きに15室、窓は東北向き。	・校庭向きに15室、窓は西南(病院側)向き。	・校庭向きに15室、窓は東南向き。	・校庭向きに15室、窓は西北向き。
4	普通教室採光		・午前の採光は良。午後にかけて陰る。	・午前は陰る。午後の採光は良。西日が入る	・午前の採光は良。午後にかけて陰る。	・朝方の採光は良。午後から陰る。
5	車両アクセス	給食用に車両出入口を1箇所整備	・西側相互通行道路のみ。	・南側一方通行道路のみ。地盤面の高さ(GL)を上げるため、スロープ等必要	・北側相互及び西側一方通行道路に面する。	・北側相互及び西側一方通行道路に面する。
7	広さ	既存1800㎡×1.5倍以上	・約3000㎡ ※現校庭の1.67倍	・約3000㎡ ※現校庭の1.67倍	・約2300㎡ ※現校庭の1.28倍	・約2500㎡ ※現校庭の1.39倍
8	トラック	100mトラックと50m走路	・100mトラックと50m走路、周囲に余地あり。	・100mトラックと50m走路、周囲に余地あり。	・100mトラックと50m走路、周囲に余地なし。	・100mトラックと50m走路、周囲に余地なし。
9	日照		・冬季、午前中は良。午後にかけて陰る。	・冬季、常に一部又は概ね全体が陰る。	・冬季、午前中は良。午後にかけて陰る。	・冬季、常に一部又は概ね全体が陰る。
10	見通し		・普通教室、職員室等から全周を確認できる。	・普通教室、職員室等から全周を確認できる。	・校庭北側の確認がし難い。	・校庭東側の確認がし難い。
11	車両アクセス	校庭整備用に車両出入口を1箇所整備	・北側一方通行道路のみ。 ・高低差が小さい為、アクセスし易い。	・西側相互・一方通行道路に面する。 ・高低差が小さい為、アクセスし易い。	・南側一方通行道路のみ。 ・高低差が大きい為、アクセスし難い。	・北側一方通行道路のみ。 ・高低差が小さい為、アクセスし易い。
12	校舎からの音		・住居に隣する教室開口部が少なく、音の影響は最も少ない。特別教室は病院側。	・特別教室等が住居側に開口部を多く有する。プラスバンドなどの練習に対し配慮が必要。	・特別教室等が北住居に隣して開口部をある程度有する。廊下でのプラスバンド練習は配慮が必要。	・校舎の特別教室等が南住居に隣して開口部をある程度有する。廊下でのプラスバンド練習は配慮が必要。
13	校庭からの音		・住居に対しては、図中の左右、上の3方に漏れやすい。	・住居に対しては、図中の左右の2方に漏れやすい。なお、拡声器は病院棟の反響に配慮を要する。	・住居に対しては、図中の上・右の2方に漏れやすい。	・住居に対しては、図中の上・左の2方に漏れやすい。
14	日影		・冬季 校舎周辺の図左に日影となる部分がある。	・冬季 校舎周辺の図左上に日影となる部分がある。	・冬季 校舎周辺の図左上と上部の一部に日影となる部分がある。	・冬季 校舎周辺の図左の一部と上の部分に日影となる部分がある。
15	砂埃	防塵仕様	・人工芝、舗装等防塵対策を行うため飛散し難い。	・人工芝、舗装等防塵対策を行うため飛散し難い。	・人工芝、舗装等防塵対策を行うため飛散し難い。	・人工芝、舗装等防塵対策を行うため飛散し難い。
16	避難所アクセス	体育館	・校舎が西側相互通行道路に面するため、人、車両共にアクセスが容易。 ・体育館に向かって道路面はやや上勾配。高台に向かって避難。	・校舎が北側一方通行道路に面するため、車両にアクセス制限が出る。 ・体育館に向かって道路面は下勾配。低地に向かって避難。	・校舎が南側相互通行道路に面するため、人、車両共にアクセスが容易。 ・体育館に向かって道路面は上勾配。高台に向かって避難。	・校舎が南側相互通行道路に面するため、人、車両共にアクセスが容易。 ・体育館に向かって道路面は上勾配。高台に向かって避難。
17	浸水対策	校舎及び体育館	・校舎位置が敷地内で最も高い。 ・校舎が壁となる近隣への逃げ水の恐れが少なく、校舎への浸水対策も容易。	・校舎位置が敷地内で最も低い。 ・浸水対策による安全確保は可能だが、近隣への逃げ水の恐れがでる。	・校舎端は高い。 ・校舎が壁となる近隣への逃げ水の恐れが少なく、校舎への浸水対策も容易。	・校舎端は高い。 ・校舎が壁となる近隣への逃げ水の恐れが少なく、校舎への浸水対策も容易。
18	雨水流出抑制		・校庭が敷地内で低い位置にあるため、校庭への一時貯留や雨水貯留浸透施設の効果が出やすい。	・校庭が敷地内で高い位置にあるため、校庭への一時貯留や雨水貯留浸透施設も、東側には効果が出にくい。 ・校庭を切り下げる場合、道路面に1m前後の段差ができる。	・校庭が敷地内で低い位置にあるため、校庭への一時貯留や雨水貯留浸透施設の効果が出やすい。	・校庭が敷地内で低い位置にあるため、校庭への一時貯留や雨水貯留浸透施設の効果が出やすい。

※本図面は検討段階のものであり、各種手続き・届出等により変更となる可能性があります。